

# SAKU らいぶ 53号

## 図書館だより



平成26年10月号

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館

### [ 内容 ]

- ・手書きの時代をふりかえって
- ・SAKUらセレクト
- ・季を愛でる
- ・NewFace 登場
- ・らいぶニュース
- ・らいぶ Question
- ・図書館開館カレンダー

## 手書きの時代をふりかえって

作新学院大学人間文化学部 教授 小林千枝子

最近、ある必要があって、1981～82年に開催されていた発達社会史研究会のファイルを書庫から探し出した。この当時、私は大学院博士課程の大学院生で、この研究会の事務局の中心的担い手になっていた。レジュメも通信もそっくりファイルされていた。社会史を教育史に取り入れる方策が模索されていたころで、レジュメはほとんどが欧語文献の翻訳かその要約だった。すべて手書きだった。通信は大学院生が持ち回りで各会のまとめを書き、次回のお知らせとともに郵送していた。パソコンはもとよりワープロも普及していない時代だった。通信に担当者名は記されていなかったが、字体から誰が書いたのかがわかった。

あれから30余年たった今、状況が恐ろしく変わったことに驚く。まず、案内の送付は郵送からメール添付に変わった。レジュメはワープロソフトで作成するようになった。読みにくい字を書く人もいたので、ワープロ普及当時、読み合わせが楽になったと喜んだ記憶がある。さらに、インターネットの普及により、メールによる即時通信が可能になっただけでなく、調べものも容易になった。



とても便利な世の中になった。通信機能の発達はとくにすさまじい。LINEは大学生にとって便利なもののようだ。しかし、ここに落とし穴はないのだろうか。字体から顔が見える時代に、現代では失われがちな、ある大切なものがあつたのではないだろうか。



～本学図書館にある珠玉の1冊を紹介します～

「だから荒野」 桐野夏生 著 朝日新聞社 刊 913.6/ Ki

専業主婦の朋美は46歳の誕生日に家族と食事に出かけますが、レストランで口論になります。カッとなった朋美は店を飛び出し、そのまま夫の車で放浪の旅に出ます。二度と家には戻らないと長崎を目指しますが、パーキングエリアで車を盗まれてしまい……

著者の桐野夏生は「会社や社会の役割に収まってしまっている人には興味はない。どこか外れて、鬱屈とした思いをしている人にひかれる。」と言います。本書は壊れかけた家庭における焦燥がテーマです。

終盤、立ち直りかけた次男が再び乱暴な言葉を使い、ネットゲームの世界へ引き返そうとするあたりで、どうしようもない徒労感と強烈なリアリティを感じておもしろいです。

桐野夏生の“どこまでも続く荒野”を覗いてみませんか？



## 季を愛でる

「月」

図書課長 野中千秋

月と言えば十五夜。中秋の名月ともいわれ、収穫に感謝する行事です。今年は、例年になく早い9月8日でした。お団子や、野菜・果物の他にススキを供えますが、ススキは神様の依り代と考えられています。稲穂が実る前なので、稲穂に見立てたススキが選ばれたといわれています。その鋭い切り口は、魔除けになるとされ、お月見のあとも軒先に吊るしておく風習があります。

次の日十六夜（いざよい）は、スーパームーンでした。今年は7月12日・8月10日と三度見られ、普通の満月に比べ、その大きさは14%増、明るさは30%増だそうです。

十五夜は地球の騒ぎ視つづける 千秋

# NewFace 登場

～新しく作大に配属になった職員からのメッセージです～

「おすすめ図書」

会計課 田中 亜樹那

私にとって本とは、読み終わったらそこで終わりではなく、人生に影響を与え続けてくれるものです。また小説は、自分以外の誰かの人生を体験できる貴重な時間を与えてくれます。

特に印象に残っている小説は、ダニエル・キイス作の「アルジャーノンに花束を」とカズオ・イシグロ作の「わたしを離さないで」です。この2作品の、現実にこれが起きているのではないかと思わせてくれる臨場感と、あまりにも衝撃的な内容によって、私は一週間ほど話の内容を引きずり、もやもやし続けました。ですが、人の一生について深く考えさせられる素晴らしい作品です。訳も日本語の良さが巧みに表現されています。

学生のみなさん。感性が鋭い学生のうちに、是非たくさんの本を読んで、これから社会に出てどうしていきたいかをじっくり考えてみてくださいね。

アルジャーノンに花束を 933/Ke

## らいぶニュース

本学では毎年、文部科学大臣の委託を受け、学校図書館司書教諭講習を実施しています。図書館では8月18日より4日間にわたり「情報メディアの活用」などの講習会が行われ、受講生のみなさんが熱心に学ばれました。

大学とは社会に貢献する存在と考え、本学は折に触れキャンパスを開放し、お役に立てるよう努めてまいります。

# らいし Question



## どう診る？危険ドラッグ中毒者

日経メディカル 8月号より

警察庁と厚生労働省は(①)月22日、麻薬に似た作用を持つにもかかわらず、化学構造が一部異なるため、薬物4法や薬事法で販売・使用などが規制されていない物質の呼称を「脱法ドラッグ」から「(②)」に改めた。「危険ドラッグ」と一括りにされているが、中身はバラバラ。何が含まれ、摂取後にどんな症状が現われるかは予測できない。最近では複数の(③)を混ぜて販売しているものが多い。

図書館にある資料から出題します。答えはカウンターにある解答用紙に記入してください。全問正解で1ポイントです。今年度中に5ポイント集めた方には、記念品を贈呈します。



### お知らせ

今号第一面を書いてくださった小林千枝子先生の著書『「天の恵」騒動記』は本学図書館で読むことができます。

働く女性の妊娠・出産・育児の記録が感動とともに胸に迫ります。

全ての女性と男性に読んでほしい一冊。ぜひご覧ください。

請求記号 598.2/Ko

### 図書館開館カレンダー10月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

□ 9:00~18:00

□ 休館日

□ 9:00~13:30

~~~~~  
発行・編集 ~~~~~

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館

Tel 028-670-3651・3652

Fax 028-670-3619E-mail [tosyo@sakushin-u.ac.jp](mailto:tosyo@sakushin-u.ac.jp)

URL <http://www.sakushin-u.ac.jp/library/>

